面の城壁を占據し、 、太原城八日同盟至急報」萱島部隊は八日午前九時十三分太原城東正 午前九時三十分北の正門の一角を占領せり 【北京八日同盟至急報】軍司令部午前十時三十五分發表——大場部隊は に現れ、地上部隊の突撃と呼應して望樓及び城内兵營に猛烈な空爆を敢行した、 **本原城八日同盟至 ※報」萱島部隊の太原城東正面の城 壁占據に次いで、大場 部隊も同九時** 北京八日同盟至急報]八日午前十時半軍發表==萱島部隊は八日午前 時十三分太原城以壁東城門の一角を占領せり -分東側城壁を占領し、日章族を掲げ **公原城内を爆撃** 日章旗を揚げた 出發した我○○機は午前七時寒風を衝いて太原城上空【太原城外晋城村八日同盟至急報】八日早朝○○基地を

城内掃蕩を開始【太原八日同盟至急報】東側及北側城壁の一角を占領し 街戦を展開猛烈な掃蕩を開始した

堪忍袋の緒を切る 烈なる攻城戦 田緒を誇る城も黒煙に包まる

易けれど多数の市民を有する場内。宣つて或は軍使を添し或は空中4、無辜の市民及第三国人に對し抵抗。**かくて** 無事態で域内が軍は、これを一幕に試験するは、ある配に對し、昨七日朝來再当に、の決意を認めた、然し乍ら破内の、立退さを要求したのであった。 した我 に派型つて最後の抵抗を試べつ、 切つた〇〇部総長は闘手武力占領 中官僚を以て八日午前七時までに 第一國人に點を及ぼすたが、確認たる支那軍の容る」と 〇高隊長は、僅か二キロの南方包 Vすと00部隊長は何も城内。ころとならず、遠に堪恋袋の緒を、陽陬を緩め城内非戦闘員に對し空

を危惧し、對日政策を轉換し日本

及び機関銃、環薬多數を関連した| が地上部隊はリンカーン路を確保|

野光を浴びつつ敗走の敵を猛迫中

上海戰況發表

兩部隊敵陣を占據

一集に撃滅せん産氣込と、綽々た 兄子は辞をかへして極東赤軍·

今や全く空城化

八口も百數十萬から三、四十萬に 某國人の視察した現状

敵遵棄死體 七百

で占握、更に息をもつかず川家郷

一般に猛略を加へ艦戦の後田

旭杭甬鐵道を

・我軍の撤割は極めで感覚であつ

事故が顧問と親つ 溢して居る が同門と使前の参拝で日本第分旺

又近くブ市へ

イーデン外相

天津八日同盟至急報一八日午前九時十三分太原城は遂に陷落した 太原城外普城村八日同盟】太原 一般の退路を濃酸すべく太原西 斷すべく急追, 敵の退路を遮

> 時までに南門より温ますべし したが、更に、七日正午『第

攻城戦を展開空陸呼應して

日政策を轉換

蘇の空氣緩和

極東赤軍首腦部間にこの

スパーク外相が八方が走の結果が

に漁田した友軍と協力、七日太

戦局日記

キロの錦川増クリーク設備を

州側上陸に協力、空軍活躍が 海軍航空隊は杭

南河の職を攻撃中の富士井部隊を開始した一方蘇州河を進つて

20 本府明年度豫章概

概以無動は本年度後

一月一日大磁省に回

2低攻撃を開始、酸は南方に

各相要談 (東震語)

して猛烈た宇陸呼應の攻域戦を展

れるく官邸に首相を訪ね、常面の 十分、吉野商相は十時五十五分そ た安井前文相はこれより先き九時

省案は一般資計・変定策となるので

て台に関する大

なるべく、從つて職談

頃の見込みであるが

本所以問毛種方自

手加減を以て殴け機様。要經費と目されるので

消販設並に改修、産

れ、新雄要求の主

際牧等を挙げられて

らはいづれも時局闘

場所近ば六日朝來補順降り

廣田外相接受す

七日午後五時駐日ベルギー大使バ ッソンピエール氏が外相官邸に廣 脱議に踏り、正式に帝國政府の隙 東京電話】北ヶ関権約管選日本なる部文を作成しての内容に | お野田回答日上書は「殿籍なる機能を加へ、

午後二時二十三分~の| 拓殖資祉機裁・池南中|

人

といなる機構であり **美國乃主五個四程安** 可避としてゐるので 印要求一處。時間開 職が明瞭であると

米代表の受けた 訓令の基礎

る苦境にたつに至ったものと解さ

職就简に呼順して脳の張固な際地。一般の上流方面に現れ地上部隊の進

棚崎張風を衝いて蘇州河南岸及黄 【上海八日同盟】陸の系懸軍は今

は我渡河部隊の猛撃に敗色減厚を【上布八日同盟】終州河南岸の敵

海包圍の體勢に

入進展を齎す

ゐることを如實に物語るものであ

の敵を猛ぶ 蘇州河南岸

朝来退却を開始蘇州河南岸の敵

関
特
省
関
係
の
事
構
に
重
ず
る
集
有
力
注
目
を
激
い
て
る
る
が
、
七
日
記
者
が 母】 プラツセル合議におけるアメ に重要関係あるものとして内外の リカ代表の態度は問題今後の發展

※那軍役闘団に狂戦、その手

関の本義を再考せむ **野草属、努力飲** 抑聞出來十

ても取目だと知った でくに堪へず

は日本を無疵的に破

それが長期抗日の本

口では何とでもい

米の以で頭痛が

八日午後太

トガル

飽迄第二國拒絕

九國條約離脱の意見有力

東側力におしており、 飲用と影演しており、 飲用と思議しており、 を私に明主編を置 第一面に掲げま編を置 第一面に掲げま編を置

護女で天被を御何ひ奉

節編帷、世界永遠の平伊三國防共協定の成立

次定は年末原第第の閣

最に至るまでの努力

へなるべきを信じ、慶祝 班、世界の平和に貢献す 更防実協定成立を見、人 驻蠲火使、堀田駐伊火

優級用家。

の狂熱 夏麦大評判 ない。 ないでは、その女スペイに射 を辞まうと活動する女ス を辞まうと活動する女ス たれた飛行將被の身代りたれた飛行將被の身代り 先生大傑作! れた観照家の無と、

3色机切賣判 號月 E 林瑩 那通 義工讀物傑作集 紫友田恭助伍長 **元野に墓を守る女** 支那 7 Q 生月期

言る

Eの先決要件はポルシ

捕滅にあり

聯接近の心事

不れるもの、日頃伊

関伊施定

地立黄 投官 東上中のとこ

健清開

加納部隊長

柳夏夫

を言葉、北支管

事変画報

此の外…

定價六十銭(聯) *大阪神経過度

れぬ中、お早くお水め下さい! 一番の 女 瀬 徹、 素敵 な出 変 薬え

経路を睨んで動かず全機緊張 | 斉射撃を中止、東々海上

原陷浴を慶祝

弟は常習窃盗で一足先に

の强盗就練

お繩

強飛降り

代理店至急求む。経済人生込み

を可収割切に姓へいる一般で申込むがよって関係から治院す

期間は十六日から三十日まで

官民合同の

せん息・神經痛

の帰見のたんせきのの帰見のたんせきの での水楽 一般たんせき。 總發寶元 丸 石 あり 薬店に 金金金 一五三種 十十類 圓銭銭

動腰硬化で飛ごり耳鳴りで不郷香もつれに擺む人と大に喜ばれてゐる。此病氣で困れる人々を原此病氣で困れる人々を原 で治る いな

展

び、動客より()、関出 政策、足爪、レ、からひ 支援を、足爪、レ、からひ 水

房 藏

アイスアーキ機 氣圧縮機 保員参上 FIGHT THE FIRST 大き 高林 大江 大江

やリウマチで手足腫作

でせき、たん息切れ呼

明明 研究所へ造版なく 大坂市阪急級:図鑑明

織んで困れる人は

労はつらい膨胀を詳し

番九三七一圏山電話電・比番O七号暗岡府城京 町元岡市区港市阪大 拉斯

各眼科病院處方眼鏡賣任調製 京城曹等南流湖村 不如與首覧流 医埃尔丁字原的现在 企业 阿克 一川等水路區 电 由 遊 軍 周 院 一川等水路區 电 中 原 一川等水路區 医甲基基丁酸对卵中定 医甲基基丁酸对卵中定

へあれば!

カタロアを指(型:道) 現 所 本 町 二丁目 京 城 府 本 町 二丁目

大型地民族是

文價 分 護

しないつもお音

老婆を斬つた

歌を ようとする本で奏兵に呼一郎、徳 り今度は蘇蔣、東大門駅とお互ひ城府 をこの附近に文化住宅側を超設し 一まつ永斐神縣に貴康默提出とない頃 明 水台 の土地十六萬坪 一部の清かいきり起つた、学ひは「時 内

ヘ滿を抱く一派百五十名は

府民館で氣勢をあぐ

製業株式

會 ħŁ,

勞尊

國民精神作興第二日

河用

砲艦児學

本社特派員

助

■ は同レコートは 山口樂器店

始まつた國民精神作興週間

努めませう!精華の宣揚

お漬もの

忠勇の尊き犠牲

れは靖國神社

あまりこのならなく 質けて楽楽になく 質けて楽楽にない を求夫にします。 を求夫だします。 を求れると肥立ち

分成主 ア果葡萄 酸糖糖 店、百貨店にあり

あって口がまづいるので口がまづいるので口がまづいでも、 乗駆ひながでもります。 「一般を切りをする」 お前見 間もよく、何歌も切りおけるはい。 お前見 間のおけるに用る いた。 いないではいる前 いないがはいる前 いないがはいる前 いないが、 のでもか。にでいるが、 のでもれます。 であれます。 夹蛛。必爱 專與格斯



十一月五 日 市市出版 代學语 阿思達爾文尼 活味出版 代學语 阿思達爾文尼 活味出版 代班语 阿思達英语

** ** ***

群山田帆 代理店 東海 丸 士士

聯 國 時 前

趣に致し、 ものです。 ものです。 ものです。

西湖建山縣 代海 宏田 商會

成件出射 代理店 北 咩 南船艦 十一月六 日

完山田州 代理山 朝即建築支度

語形形并而改成語言

内鮮運輸贮出帆

総攻撃中の森本部隊(平定附近

春楠ゑ球根の越冬法 ダリア、カンナ、グラジオラス

李王家植物園 大谷元三郎氏談

選しすることなり様ですが朝鮮で | 総根を凝山も持ちの方や家の中に | 越しいたします けで種く簡単に多越し日来るので 設備のない方にとってけ可成り に建設にさらればにりません、又 ジオラスと同様にすれば安全に至しものですから選集の人らり様に戦 の様根もありまずがいづれもグラー法ですが地下第は配分番減の多い ラフサスとかチューベローズなど そこに入れて保存されるのも一方 にやる水がからつとり又直接地面」い古縁を取除け個際山紫龍して が一番よい方法です、この外ゼノ オンドルの棚にでも上げておくの に手入れをし頭が髪の中に入れて

本社直買の分は賣り切れ

出年朝

支局並に販賣店にあります 鮮年鑑八百餘頁

一ヶ月にして既に本社直費の分は質切れとなりました。今後の購入絢香泉の方は、お手敷なが にとつて総對に必要なこの朝鮮年達として形よやうな資利行きです。お腹で發質以來わつ 朝鮮に住む者、朝鮮で事業を養む者、朝鮮にて活動する者、七の他朝鮮を充分知らんとする後継發行の昭申丁二年城「清鮮年業」に遂襲出来薬職らしい好評を呈し、非常時局に直面し

> 頭痛藥の 最高標準

發

養品

製造養養元 総武田長兵衛商店

朝東代理店 他監小西新兵衛商店

110銭 三〇銭

87(1)116



か今晩6ラギオ

而も常用すれば神経の祭 特の薬効を併せ持つてゐる した頭をハツキリさせる猫 の疲れを恢復して、朦朧 るだけでなく、同時に頭際

たが果がありますから をよくし、心臓を温郁する 必需要として好評です。

能効るな主

ノーシンの優れた点は 唯だ頭の痛みを速かに止

ルに殺菌消毒素で、痛み を変の変用するサキシー 関等促生薬さして の上皮形成 さたスポーツや旅行時のので、家庭常備楽さして野か止め郷ご女郎したも 許を博してゐます。 後間樂さらで个非所な好 した家庭裏の新館です。 サキンロンは日本で完成 愛用しませう

藥傷外庭家の田武



町村君が吹息して 「何だい。お走詐欺といふのは」

太原を目ざし進撃の鯉登部隊

を入れよくは外込ませておいて乾かずと、火をつけても決して敷えらつらない。か開来上ります。わよつと見る部でして敷えらつらない。か開来上ります。わよつと見る部でを入れよくは外込ませておいて乾かずと、火をつけても決 - リーイニー この《幸かの湯に溶かしたものに、郷の間と適待とを約一針二の分景に提せ、確安を、それら側

こうちの女形のやつ こうん

一度とかいい文字があるのは商品の 地地、又は唐主の用生地を示し るのは同語をであることを理任

一選文の先生などは起きして事 言る、この外に唐の前間を形段 岩種に 与股泛線、柳水をに 新紹久

漢學者が延を重す

支那招牌の名文句

この文字にも投えからいると言いで次 「他の文字にも投えからいると言い。 「いないそうな楽部館がが用いら、何には、リーヤンボーアでは、 「の立いそうな楽部館がが用いら、何には、リーヤンボーアでは、 「何には、リーヤンボーアでは、 「何には、フーヤンボーアでは、 「何には、フーヤンボーアでは、 「何には、フーヤンボーアでは、 「何には、フーヤンボーアでは、 「何には、フーヤンボーアでは、 「何には、フーヤンボーアでは、 「一世の世のでは、フーマンボーアでは、 「一世のでは、フーマンボーアでは、 「一世のでは、フーマンボーアでは、 「一世のでは、フーマンボーアでは、 「一世のでは、フーマンボーアでは、 「一世のでは、フーマンボーアでは、 「一世のでは、フーマンボーアでは、 「一世のでは、 「一世ので

自来大(スレソ) 忍厥の胎指大 行の婦人の能荷や婦人服 新五祖親(シフィジュソオ)歳

に拘らず却々立根で食色な然、

大車 (ホータナ) 汽車、地域の を車 (ホータナ) 汽車、地域の が、表(タオン、ロココ) 経体 橋崎 (フノエニ) 汽船 ボン (には) 大車 (ホータナ) 汽車 (ホータナ) (ホータナ)

一分、二分、五分… ノーシンのんて

◆保護部行信託時報(十一月號)無部分手

六九、乳牛タイムス社 鉄、東京・世田谷・世田谷一ノ九 ★乳牛ダイムス (十一月號) 五十

京城古市町四二、朝鮮公論社

★朝鲜嫩近協会、報(十一月號) 五十錢、京城古市町一四、朝鲜 近協会

接ば許文に應じること、全路、これらの招牌の上や横に総都で発承接(モンチイキンツ)水 - 語の音線 | 特理集団上屋 | 徳津風(テレフオン)電話 英

重く朦朧とした頭が

パツト明るくなつて

スツと軽くなつて、 割れる程痛かつた頭が

空の青さ、雲の白さ ほんとに頭も 日本晴れ

思はず微笑むあなたです

Sed O

國産品を



ザの 手當は キシロンで

特に添ろしい病菌に侵されるやうな 傷 手端が大切で、手並を立つたはどんなに小さくとも最初の

傷日の化膜や病菌の優人を防ぎ、症のけておけば、殺菌消毒力によって みを去り、傷面には連に向芽や表皮 怪事をしたとき、すぐサキシロンを とは個々あります。

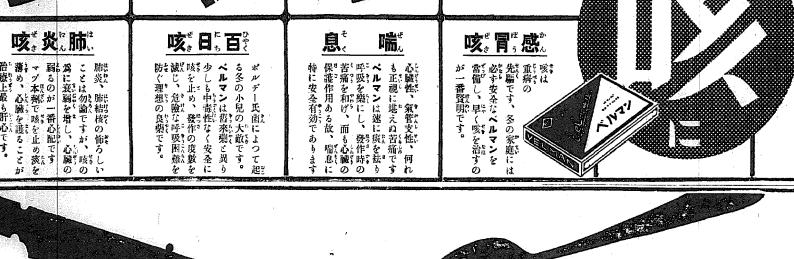
が出来で傷がなほります。

ぜひ一家に一罐の常備をノ

田 共庆 「女職さん、お前の賽ころ占ひでた」とでも」 が當。一つあるから知れわえたあ」 こと、いふとの民さんがどうかし 居壌けをしてるりや頂端があずは、民五邦が追つかけて行って無事に 『さうなんです。 ねえ今市さん、 は、民さんの情婦でもあるのか」か……さうか。 男は 民五 郎で女 かりといふのを聞いて伊八は、 一躍の間に概を立てゝ、ぼつりぼ 『ふうむ――と、冠蘂は伊勢崎のとに細かく話すと、今市が、 物を探してるるのかと言くと。一、それぢや人を探してゐるのか 「うむ、云つてゐた。何處へ行く)、 頭を眺めて今市が、 さう聞いて安心がやつと出來ま と女を探してあるといつてゐた くれ えと、かう云つた。で、何を探しと、併入がいつた時は精神概をと、刺らわえから河定へは濡れしん。 るといふから判つたのかと尋ねかと訳いたら、カッと探し者が 事情を文概と併入と二人で、★ | 軒下に停んで、ゼット道路の果な といふと、それは嵌へねえとい と、遊の色を變へて具く支献 **正市さん。 地域が何とかいひま** ノばつて騒へるだらう 如く、今まで垂れてゐた成尾をびいれていつかった。大に話が到ったかの はにつかった。大に話が到ったかの いっぱい と見えんとする、神光を 一 げいと外へ田た今市は、東談、 りは朝になるから戻て持つてるて「この頃で花も色が落ちるね。路 が、跳ぶ、今市心事は最く、 今市が手にしてゐた。 「え?。お前さんだれだ」で、 叫々しく、 と、横町から出てきた犬が、こに起つた。 よ。俺が判らねえぢゃ申弊なから一ほう、久公ぢゃなかつた。俺だ ちを氣にしながら

担ってめた、

果して誘指の張り番が、軒の雨落 古い竹板のうどん壁の裏へ廻るとる。からして歌が付いてたので、 文献が探してゐたのは略堪であっとあげて行つてしまった。 度、それを開及して四蛇目の形下
る果を眺めてるた今市は、二三 野が往來まで帰れてゐる人家のとしてゐる。 とる今市で はない、感が利 き次國定から玉村へ、顧路はかりを 支減。但八も可成り活者な足が で、小部の売便を認ってしまれた。 ちんかい ののではを思るします。 既は花、生れなりの出がに際る窓すがらこれないのではを認っていたのでも、ちんないのではを記るでは、生まれたのでは、生まれた。 せた小的図さん。今を始りと呼りました。すると一天戦にからかは極い気し見とれて自りました。すると一天戦にからに続ない場で、それで超れるが追いませんが、それに架けられてという。 歌光・離れ酸となったが 動った邦本版は見る (うちに では大麻子などなり心あるではお頭、 若い味から西を好み、 となり心ある と、時の頭の様の大松が集仮を一個せんと思案にくれて居ります でもある窓へ、中里想者の近日ませんが、酒の様に身もは飲りくわしく唇へられては かこちつ、帰風なく世を綴つかこちつ、帰風なく世を綴つ りました。其の晩年について人造から常に爪難きされて居 れでは和歌の間匠。然気至つ 酒毒に倒れた 遺傳毒の方へ 派少海電は天才服の歌人 お樊めして大徳喜ばれました 型土 清少納言 が原は機の動を融ー、悪生能や甲項明も際、環塞の動とた。 融のが除りと がいでせう。 君源の避わによるに、職のが除りと がいでせう。 君源の避わによる 識印印 変に巡れて国られますが 一葉の人 (完成其他の運出から) を優 人 (完成其他の運出から) を優 て、健康が、人には別語りを立 古醫學から再檢討(四六判美型主) つて耐い願へ、其處 遺傳声や酒・煙草の声から 櫻渡戸に薄命を嘆く 小玉大盛堂 ▽便秘がちで吹出に苦しな底れな人(梅雅・神郎変勢)▽頭紙、耳鳴、層様、手足の痺れる人(伸猟・神郎術)▽頭紙、耳鳴、層様、手足の痺れる人(伸猟・神郎術) 資質のいで此度に捨て置くしてれつる質の脳の事なれば 排除血液循環とふる血療法 頭 手足や腰の痺れ冷え痛む人が 込 重 無毒となれて丈夫に 所 耳鳴り、 を記している。 古醫學 から巡る「ふる山」が、如何に子一般へ震性の間というから、他へ思いがない。自分間点が対めた人、便のでは大きなのと、かったともかく、便のでもない子でとさかく、便のでもない子 「さっ血」をどうすれば郷底世來 をか。 現代診敷験を整備に古族 野味の味樹満は歌か解説に一大 野味の味樹満は歌か解説に一大 づくともなく立ち去りました。 を出すとしたら私共はもつと はじきは悪難に坐身不随や狂人風血線だやれ狂人血線だとの爪 関ではないでせらか。比略まで や無を無難の謎へ突き路と、中 よりに旅をついけたらしい。 じます。では此の恋る可き病院 ある事を形分野了解師へたと似 お記すれば選及が「一言の血」で 肩の凝り 此の選問に就いて注意が肝 研究 B心臓衰弱の危険を防ぎ A(観咳、祛痰の作用強く C 中毒性なく、安全奏効



も養榮も味に理料肉 くよ 酒 るす和調

云ふまでも である事は に甚だ好適 衡を保つ上 取築養の均 肉食者の攝 をり 之が を保有して 林檎の榮養



で あつさ 類の如き濃 輕い醉心地 るだけでな よく調和す 厚な食物に 等の點で肉 りとした味 ンパンー 造したシャ 林檎から醸 また…

张生十二 均

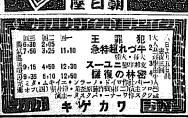
ペシヤシ橋林



各地製店に販賣す (単一) 試用 三十 (単一) 試用 三十

元豐產 藥會商平丹







三部花 浪声

+





跟科專門 **び眼科醫院**

岩田寧太郎 伸出

寂れ、晩年の小野小

唐澤醫學

博士推獎

花の色香も褪めはてゝ

医学博士 公 炳 禹 草城府傳灣町十字街(電話光1252番)

从此文文丰竹松。今 加西西原治明四西

た際に 網五郎剛手を賜に頭を上げて見した上、夕四郎労養に有のまくを

小田原へ一変ぎり角太郎を引摘。恋を掛けたのごと思まるとも続 じません、兄弟可扱し「父母」 清集は在じまでは、母の腹野も は申しませんが、此の事は対域能

共・紙・百貨店にあり

龍齋貞丈演

木俣克州品

と願って居るといふことも父安井一一渡されました。されば斯る親方 朝「ベメータ器は入りました、私」と書たが条絵並って居る。

御暇を下し置かれまするやう、

げぬ遊様には御所家より御前教を

飛「エ・イ切れく」

若侍太刀の間に手を掛けヒラリ

何となく今がへれば優減のやう、一人を江戸へ先へ立たせましたが

の山田屋政正郎と申す据龍屋へ泊 まご売りまして部奈川十番部の橋

、る者か、小田原を立つて神奈川

りまして指々斯郡病氣といふて私

手前に認識を掛けん物へでござい。に落ちたかと思ひまや、ヒラリ種見とは云へ、此の剣をすり替へて「安非頼五郎様式の音はパッたり顔」 向に張波り、ヤッと切り下ろせばと引抜き、横五郎の後へ懸つて属 安非綱五郎勝義の音はパッたり副

送り、兄角太郎を引つ跳へ吟味い

四郎。ほの権勢も在じません。御前一部は下し置かれ、私に縄打つて小

用で其後は決して相違らんぞうは、

まして、弥奈川龍の構造山田建へ、つたからボロの近郊打ち得としたらく、恐れ入りましてごさ。 を奪したることかぶコローととましたらく、恐れ入りましてごさ を奪したることかぶコロー(と 是れはと聞く難を捉へてグンといったからボロリ直線打ち落とし、

田原なり神奈川までお連れなされ

まする、私名代として父の代、私 たが、ハテ……恐れながら甲上げ に神然地に供して初めて知りまし

指述いとして兄の安非角太郎と云

五様でございまするか、然ら らんぞくし

+

して、これより御手能を願きたい

に及ばん、常宝でさせる。現は近と前の有鍵は、阿修羅王の暴れたる。 へできつった。 がきょしいと前 即の有鍵は、阿修羅王の暴れたる。



域に向って大道室中である。これがため神楽に久しく特別した底は同花が 完全に包圍されるのは 最早時間の問題となつて來たので て税と潘老し南市方面は目下大涯戯に陥つてゐるが、 今や大上海 が日本雷

わが新上陸部隊の進撃

附近を占據 松江西南方

数を完全に比慮しその先頭消除は

遂に松江の敵軍を包圍

退却の敵に

の数日本の猛攻に堪へかね、蘇州河南方地區の畝は我

る我北方部隊と杭州南より北道し「れて袋の鼠となり今で飛渡か上海」となった 時間の問題

英資本と容

共政策

た途端に今次事要が後載

るがソの共産主義と英の資本と

農林省より登表さる

肋

膜

炎

店商邊田歐大家

たのだが奏が利きすぎて日支の

わか航空隊

路に立つに至りを総に亘つて大動を放棄して機退却するかの所大変 超過的據點たる上海までも根

の機選は載みに促進せ交渉中であった原図通

0

M者の間に関印を了 程で横府郷路前 にまでなってゐる。 政し 有案文の字句を決 については開著の間で

手鞭

※ 川 外 アレラテ

は競漫せられる段取

存状を軽快せしめます。 の上皮から源部内臓に高速 の上皮から源部内臓に高速 で成長二機熱を去り、適田 で収長二機熱を去り、適田 で収長二機熱を去り、適田

¥ € CON EO EO E

要当にあり 円二十銭

作を訪問

一時五十二分相前後して。世五分三方十分 歴史成立に関し依存を 外相を訪問し日復徒 駐日獨選大使は八日

米國の行過ぎ 對運動

皇子 ワシントン標品 カ上院有力者間に入 シ七日何**盟**)七日 大院隨意 醋酸 mind no 所院 是 是 今 村 病 院是 最 是 今 村 粤 八 院是 最 是 今 村 粤 八 院是 最 是 今 村 粤 八 院是 最 是 今 村 粤 院

孫を総る現反行の外交

普通銀行業務 明月 日本 東西 化原油 年賦定期貸付 一日本東西 化原油

京城南大門通二丁目百四十番地ノ一

窓 能 引 禁 追 産 銀 行 藏

【北京八日回盟】乍後三時, 四分程度掃蕩城内旣に

資本金参千萬國 同所共十四ヶ所まに内 (今解子地に支京派田

りと云ふのである。昔にいの渦中に推さ込まれる。ファリカは遂に同僚的

(月刊カタログ進量) O

支店 東京大阪

1世年 147 たい水社 147 たい水社 147 たい水社 147 たい水社

中國大使軍場甚當

に「金魚型のため来社」は朝鮮選手機能育)全民(城大健科教授・明 の15 京城市街がに次次へ)で京城市街がに次次

財理一帶の地脈には最軍の行動が、勝兵になつき女主で出て来て我が採風、選管の勢いで磨搾した。金田一才ことを知つた後帯は、然ち我が

日の丸はためく

||城初の附近部落に残ってゐる土||附近の野山縣下における土民築の

つて抵抗をつづける敵を攻め立て次第に押し詰めつゝあり、 近に開かれた第三突撃路から栗飯原部隊は城内に殺害、大場「電島兩部隊に呼應し、なほも城内の各実所に立籠

舊太原城を攻撃

城内は日下四分種度品を

ハ十三日午茂三旦四十二大(前軸徳頭取貴族院 人 | |

香港重慶新空路 じたばたする支那

香地間の至 四地を持つもので時節柄が異様義 急いでゐる、古新空路は重慶から | 心際異を議解、多大の効果を収め 背房・樹椒、梧州を舞て香膳に至 し帰還した。濁流滔々たる黄河は れら破壊せる軍船及助けを呼ぶ

敵は大混亂

近一僧は大混乱を呈してゐる

家の〇〇櫻は熊浦鏡方面黄河を除一中の軍船及び河畔に振襲しつ、あ一〇〇八日回盟)七日午使中島部「の栗面響同及び騰勝を空襲、渡河」

拒絕を再度回答

けふの閣議で文案を決定

帝國の態度を闡明

温暖こそは定に肚烈を極めたもの

然行した我が大場、黄島副部隊の一から機能小銃の十字砲火を浴せて

かけて進撃する、敵は破獣の左右一隊が占領、

急速に教學を認めたが、これに

總督さらに

於て家門及び北門の一番乗りを

足に太原平野の南端汾州に向け進 ひに乗じて急先落たる森本部隊は一破された隣は太原平野の南崎汾州」おいて一 的大打撃を興へると共に、その勢」追撃敗に移つた、太原におい

敢然、十字砲火を冒し

介体の 線において防衛戦を 塾直

その主人は難して行 / はあつさり表明して 必要はない | 活脈無 く、人事も別にやる 12十分人が挑衅在125年



ラチウム製薬株式食社

観賞を観音部一回客員会は八日年前十時から本府第一会議等に成て南越春観館、大野政務機能譲渡政育に各委員、候事出席して開会、戦災市総行の利主があって引つとき議案に内轄を観覧、大野政務機能を収算一会議等に成て南越春観館、大野政務機 勢の漁運に伴い現行朝鮮教育令に大政正を加い、内鮮共事を目標に番に設置された臨時教育 の自傷上り務留する銃後の赤臓は半島情段以来の一新紀元を割するに到つた、此為に於て時

信念を培養し 角總督の 挨拶要旨

御多端の際にも不拘御快路の上委員を御顧致しました處時局柄 れましたとを深く感謝致した本日第一回の合合に御出席下

例であるかと云へば、今日半

北

支戰急

ずる 助語の旨趣を逆率し 製筒になき放資 に於ける教育の本旨

量に造し本年の豫定高の二億二千

一 学品今日の質問

十一月六日取扱

| 項を加ふ

七圓七十九錢也

であることは多言を要したいで

配と恐怖。上海暗熱と南京安存したわが空軍の正路による侯方の悟 量の海上封鎖による支船の物

。店商者政保久 睑状

• 舖本

定化サテウ

、小康を選ぶ以外の何もの い主催かし戦ひの第一歩

のである、この縦まで日本軍が、とによつて、今次の事製は起つた

れ、公然日本に對して挑戦したこ

は國民に對して、その忠誠と耐

liil -



素が心 强力 な榮養 から

#

シか

美 U V 健 康

肌を生む!!

藝縮して榮養が不足して來低くなり皮脂の分泌機能は空氣が非常に乾燥し氣溫も ないとお肌が ますから充分に

分を興へ皮脂の新陳代謝 に能し眠んに た一巻適作用でお肌の深部に充分な有効成 ドで輕くマッサージをして下さい。 堀力 と彈力のある激刺とした驚く程の若 一日の洗顔後や就衰前には純質の を除き肌アレを解消 眺くアレます に手入れをし ーウテナコール

正價 • 五十五錢

Paladadalada

背兵へ駆役一致の船間金二百圓を | 黄海道上里普校三年生尹相前若は 《名嚴慰を職して勇敢する第一級』十銭と何れも真難時間金へ、また、の生徒が運動含を申止し、迫り 十銭、水原小県秩同総育からに六 島鉄後の赤縄を燃上らせて六七一審託したのを初め常川郡鞍員會で、先生から聞いた話に感激して自ら した、鴻河族からは蜀へ到るは一て、城日脈日を止めよと無当し、一からだ、大忠枫を始めとして江戦、の死命を続するまでには、なに機、戦ひ、は減く第二歩を精み、かね。て日本は支那に封し、日本は支那を何等散戦してゐない。しないところであるが、しかも蘇し 4――京英宗宗英校今校四百卅 公普六年生は本世夏夢の邸三回王 姚敦に、これら小順民の唐梨な岐日本社へ皆談された愛園戦金の は雑親資を嫁して卅圓、忠甫才山 (鯔)て得た一圓四十八线を訴訟な 眞の勝敗を決する時 採鹽數量は十年度に次ぎ 加で過去を持行したこと(1)後来、終してお、この主味大阪すること ・東京語では彼時的に第一次、一名では、一名である。この原田は(1)が「然来、等雄両側、二等雄大側の底 により支部機の最大不足を見過、等達し、利人の順原、二等雄大側の底、 により支部機の最大不足を見過、等速し、利人の順原、二等雄大側の底、 により支部機の最大不足を見過、等速し、利人の順原、二等雄大側の底、 により支部機の最大不足を見過、等速、利してい、分の原原、二等雄大側の底、 を表し、 あるが、その近衛首相、松井最高 料工裏の多数に上つてるるが 大には正城から旅州、太湖の沼蔵は、横工事のを数に上つてるるが 大にものを観じまた。 したい これを見事の作業に から郷田町の郷に進むするのであって、数ので源は てるる はてあるのであって、数ので源は でんじゅう はいい これを見事の作業に から郷田町の郷に海郷地を布に観土野心なしの方針からり、1911年 に及んでは常初の不識大方針や、 なほ女雅斯甕に致命戦を爽へたもに及んでは常初の不識大方針や、 なほ女雅斯甕に致命戦を表へたも、これは て、抗日振日を止めよと番告し、 日多数の徳田福景人犬の原復が、のである 日多数の徳田福景人犬の原復が、のである 日の日本語が、本華は冬南よ、改真に承凱を置いたことによる。 日の日本語が、本華は冬南よ、改真に承凱を置いたことによる。 上海にて 本社特派員 後 小國民の熱誠光る 四質は躍進的改良 金のはかに咸南端川郡双上の域場 一同から五十圓、端川邑基督教会 斯 上里公立普通縣校 園四十八錢,黃海道松禾 累計金 四萬六百七十 朝鮮防空器材献金 皇軍尉門金 (群を略す) 總計金十一萬四百四 京地道沿州郡 日計金 三十一<u>國四十</u>京地道沿州郡 日計金 三十一<u>國四十</u> い、続はいま北は勇足、南は南熊多の敵戦を要するといふほかはな

國防婦人會本部結成式で上門・総一督

一耳ガツル使用出来得 器食子硝物 荒物 金用庭家 店商新中田

井商會製作

萬年筆卸廉價提供

鹽は大切な軍需品

海國日本が多量の輸入

坂井耳鼻咽喉科醫院獸

MITORIATURES HATDOO

りの洗髪料は、貴女の美髪を落ちのよすぎる洗濯リーダ入 墨なしにします。 御注意を! ◎ミツワ石絵本舗 丸見屋商

赤毛、切毛の心配が 尠く美髪を確保致し なく、雲脂の悩みも

ぬま含をダーソ灌洗

料髮洗級高

本品なら むがら冬へかけて!

コレに限る!!

沈髪は

問婦人・日本展一回分



第一日仁川の行事

に可能なだけでその地は概ね。「すな丈三尺に漢字と信楽過ぎで吹」就作成頃によればこの退地を食俗

開城)府産業保では昭和九年

【永珂】沃川明儼倉では九日午前一

内地で盗んだ品を大田に隱匿

| 野に對して速かなる治療が出 お子供さんの高田塚、 戦後塚 | 東した。接喙喘息一切の病狀

松

優良薬龍角散の需要明となり

咽喉を護れ

保健の闘門

窃盗行脚の前科者

| 車 (時億五十五周位) を改取して | 手九百二十版、平均二十四版にあった京町一二科別屋の自襲 | 手九百二十版、平均二十四版に入時政府内元町七三〇朴学使方門 | 横、 製具七十八名参加し、機

てす。

然問袋

間袋に選出所許を開して居ります。 で概文、探解に優なれば、駅歌の歌なは勿談と 容響の歌効は勿談と容離は竪竿にし

ます。質に家庭必須の常備樂肺炎肺膜炎等への變症を防ぎ

これを用ふれば豫防となり、

又たんせきの北候ある時

開城の特産

果物館等丁數種を敷へ、中には相一ある(質質は穀和工場)

はあるまいと期待されて、府民に呼びかけて生活様式の改善

清州邑副邑 長更迭段令

- 擦咳喘息一切の麻状を治し 。肺炎肺膜等への壁痕を防ぐし

療

لح

防

充分で所修下職者から質物の法道

れる平壌府

清州】 忠北道内部花共同玩**为**

株券の配當さ事業税金さで

卅二萬圓の新財源

慕心會例祭

小學校は明治四十年五月「精額は人養脂、サムテキ、魚龍、

の鱈卵放流

卅周年記念

少ごと質った稻

咸南長津郡の一害年の努力

不幸二名の犠牲者迄出した

して此の稿を終る

村製薬

の済手は既に確實で魅かね狀勢に一行場に消陵、統裁官長村中佐は同

流するのであるが頭は孵化してか「鷺は栗北では相常古い歴史をもつ

再び翌年して来るものなることがた館の放流に光明が輝され、簡は

今冬更に十一億粒を放流

府會で原案を可決

縣 朔 質、身體過勞帶變障碍、成弱兒童

神身の過勞

然を増進し神

财 量; 酸がた 適 L て服易く

香.

礲 騗 作。 用i な Ļ

気質支法、心臓性等一切の ť 主治 幼 そ 能 <

階級の動物なる たんせき 切

タ ル

質の概器に 僻む 各脂酸熱及は無熱の 氣 管 支 カ

流行感胃の き 噯

お子供さんに凝る危險なる 百日嗳、麻疹嗳 肺患者のせ

本創豐泉藤井得三郎商店 **可以由的田區園島町**

超話演花の【九】〇五番級 曹東京 九一番

六四十八四十八日日 十八日日 日日日 分分分分分

三二一五三個 十十 中四回回鉄錢

▽全國薬店にあり

指導委員曾





國民性の反省 産 愛 用 前 費 節 約

献金廿八萬圓突破

投帯の第一級の背後には國民

化して餘榮あり 東站で戦死の義勇隊員

ろ、第三大韓送その他混骸の都合

仕事はこれから

第一食機室に放て其の単一回委

|設置せられた健康教育電路委||の下に審議を進められた

電力を停めるか

爆煙の醸す専賣異變

八日和山野常磐北宛に対策の底は、れを受取つた同郷では「大和吹ん」と近と選ぶ一勇士制川長年君からして下さいと送つて來たので、 弾丸前の如く降る〇〇敗線に縦を上む、そんた紙まれない人の一助に

れを受取つた同器では「大和武士

一部を龍山署へ

白繃帯に籠る誠 勇士感激の義金

担てある、上海の西部から南部「囃子名につれて、久れが造街のやらに終日終夜線け」が機大され、皇軍が

大大大 林龙 在



※ 豆口等内

大小力級 人・力級 人・力級 人・力級 大・一丁 一次の一人の名称により では、グラコムの名称により では、グラコムの名称により では、グラコムの名称により では、グラコムの名称により では、グラコムの名称により では、グラコムの名称により では、グラコムの名称により では、グラコムの名称では、グラコムの名が では、グラコムの名称では、グラコムの名が では、グラコムの名が、グラコムの名が では、グラコムの名が、グラコムの名が では、グラコムの名が、グラコムの名が では、グラコムの名が、グラコムの名が、グラコムの名が では、グラコムの名が、グラコムの名が、グラコムの名が では、グラコムの名が、グラコムの名が、グラコムの名が、グラコムの名が では、グラコムの名が、グラスの名が、グラスの名が、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、グラスのことのなり、クス

「國民讃歌」





集募社本 歌讃民國

ゆうべ倭城台官邸に行はれた

にお稽

彖壯明朗な作曲試演會の情景

かいやく思地あり、みなぎら新

た八日午後六時から倭城楽官邸の

總督も口を動かし



























國官當指定工總

第二年 東京 中部川三丁目 2002 を 002 を 0

特別命以

仲居サン数名

+

恩 給業